

今浜島で漁獲された4月28日から5月10日迄のサンマ幼魚に関して
 考えて見ると丁度前述の理由から之等のものは同一系統群と見て之なく
 その漁獲魚の日々の体重組成が一つの峯をもつ単一群であるから日々の
 峯の位置の移動（又は平均体重の増大）を以て此の期間の成長量と考
 えてよい。即ち13日間に凡そ16%の成長という事になる。

東北海区水産研究所、サンマ資源集積三部（51頁）

鯉餌料の集魚及び水スルルの活力試験

自 1957年6月 1日

至 同 年6月23日

経過報告書

- 6月19日 午後3時泊港を出航し午後7時半瀬底鰈地に仮泊した。
 6月20日 瀬底鰈地を発し午前9時運天港内に到着し引続いて餌場並びに
 極受網の操業可能な場所を調査した結果今回は下流漁場を選定して餌料の
 調査を実施した。

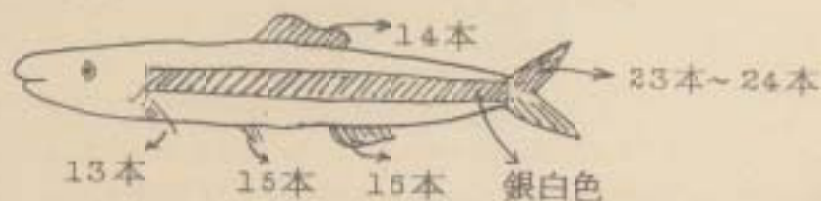
1. 調査位置

- No 1 東経128度00分 北緯26度40分12秒
 No 2 東経128度01分2秒 北緯26度37分54秒（別紙漁場面参照）
 No 3 東経128度03分36秒 北緯26度38分24秒

2. 調査項目及び試験の方法

- (1) 水スルル……魚体調査
 (2) 水上集魚灯（小型 1K 発電機）利用に依る集魚試験
 (3) 菅管網に依る活力試験
 (4) 気象、海況調査
 (イ) 魚体調査
 (A) 水スルル……（10尾平均）

略図



第4図 水刀魚及福鰯産卵

自1958年2月27日
至1958年3月1日



全長60mm, 体 51mm, 体高8mm, 体重1.44g, 尾鰭23~24条, 背鰭14条, 胸ビレ13条, 腹鰭15条, 股鰭16条, 口の周囲の縁には小刻の歯があり, 胸鰭の末端より尾の方へ6つの細い刺がある。股鰭の根元に15個位の黒点が付着し背鰭後端は股鰭先端と稍々垂直下顎は近かく頭蓋の界より尾鰭まで銀白色の横線が通っている。

ホ) 集魚状況及び採捕高

大雨直後で運天港内は到る処満り透明度6mで水色悪く其の上点灯設備が不十分で一般的に集魚網は悪く最初にキビナゴが表面に集り次いで水スルルが其の下方に集魚する傾向があつた。

魚 種	集魚高	採捕高
キビナゴ	20斤 (約)	10斤
水スルル	不 明	500尾

殆んどがキビナゴと水スルルーで其の中でもキビナゴが大多数を示している様だが中間に来着した水スルルーは透明度が浅く透視困難で数量不明。

ハ) 活力試験 (蓄養網内)

同試験は次表の様な結果を得たが向下記気象, 漁況等の条件が異なる。

試験位置	魚種	数量	採捕時	放棄時	過 時	所要時間	死亡率
N 20°37'-54"	水スルル	500尾	6月12日	10時45分	8時4分	8時間	90%
E128°03'-36"	キビナゴ	10斤	1時40分	1時15分	8時4分	8時間	40%

天気	雲量	風向	風力	気温	気温	水温	比重	透明度	水色	波浪
B0	0	SW	2	27°	10155	263	0388	6米	5	2
底質										
泥M										

所 感

シ 今回 (6月下旬) に運天港内で捕獲した水スルルーは1954年7月金武橋で寄で捕獲した水スルルと同種で同じ大きさである。従つて続いて調査を実施すれば同魚の産卵期, 産卵場及び回遊状況, 活力等略詳細な調査が出来